

from the author's theory: 5) Reduction and minor polyploidy of chromosomes and 6) Imaginable ancestral distribution along the palaeo-equator, they are also considered. The ovular orientation in the Wangerin's three subfamilies are revalued under a new understanding. At last, the foliar construction and its general aspects are verified as important phylogenetic characters. The new and more natural system is the next one.

Subfam. Mastixioideae Harms emend. (incl. Curtisioideae, & Cornoideae (p.p.))

Trib. Griselinieae Harms emend. *Mastixia*, *Aucuba*, *Griselinia*, *Curtisia*, *Kaliphora* & *Melanophylla*.

Subfam. Cornoideae Harms sensu strict.

Trib. Corneae Harms sensu str. *Cornus*, *Afrocrania*, *Macrocarpium*, *Chamaepericlymenum*, *Benthamidia*, *Dendrobenthamia* (often combined with the preceding genus) & *Corokia*.

Trib. Helwingieae (incl. Torricellieae) *Torricellia* & *Helwingia*.

□ V. A. Poddubnaya-Arnoldi; **General embryology of the Angiosperms.** pp. 482. Nauka Moscow (1964). 全文ロシア語。被子植物の生殖器官の個体発生を中心にまとめたもので、主として花粉、胚嚢、胚の形成についてかかっている。従来類書としては P. Maheshwari, *Introduction to the embryology of Angiosperms* (1950) があっただけで、それよりくわしい専門的なものである。内容は 1: 総説, 2: 花の構造, 3: 雄しべの構造と花粉形成, 4: 子房, 胚珠, 胚嚢形成, 5: 受精と受粉, 6: 胚乳形成, 7: 胚および種子形成, 8: アポミクシス, 9: 分類学と系統学に対する発生学の役割, 10: 育種と遺伝に対する発生学の役割, の10章にわけられている。ロシア語でかかっているので使いにくいだが, 系統学的研究には欠くことのできない重要な著書である。

(山崎 敬)

□ **Address book of Japanese botanists 1964.** (Edited by National Committee of Botany: published by Botanical Society of Japan, Tokyo). 日本学術会議の植物学研究連絡委員会は 1951 年に国内の植物学者の住所録を出して大変便利がられたが、これはその第2版に当る。といっても全く新しく資料を集めまた整理してある。姓名(漢字, 横文字共)に生年, 学位, 勤務先, 住所, 専門分野, 更につつこんだ専攻分野, 加入の学会や機関名をつけて ABC 順に並べ 976 人を網羅している。最初の目的は外国に日本の学者の連絡用を意図したが、我々が一冊を備えるのは便利であり、また同委員会の経済的負担を軽くするためにも読者諸君の協力を望みたい。東京大学理学部植物学教室内日本植物学会で ¥200 (送料 40別) で頒けている。 (前川文夫)